

西尾市幡豆郡三町合併記念ウォーキング しあわせウォーキング ～わがまち再発見～

わがまち再発見隊

西尾市

団体概要

団体名： わがまち再発見隊

代表者： 会長 辻村 和敏

団体目的： 平成 23 年 4 月に西尾市幡豆郡三町が合併。それを機に新しい故郷をクルマを使わずに、電車やバス、渡船などを利用して、自然豊かな故郷を守りながら、自分の足で歩くことによって目で、耳で、肌で感じてもらい、「新しいわが故郷(まち)」を再発見してもらうためにウォーキング大会などを企画し、「新しいわが故郷(まち)」としての市民への意識付けを行っている。

活動地域

西尾市

取組の経緯・背景と目的

平成 23 年 4 月に西尾市幡豆郡三町が合併し新西尾市となり、新たな故郷が誕生。故郷の大切さが見直される中、故郷が生まれ変わった今こそ、これまでの故郷、新しくなった故郷を見直し、再発見することで故郷に住むしあわせを感じてもらうことを目的に合併記念ウォーキングが開催され、「わがまち再発見隊」として、合併記念ウォーキングに参画し、ウォーキングコースの充実を図った。

モデル事業のポイントと取組内容

取組年度：平成 23 年度

■取組のポイント

- ・電車、バス、船と地域資源（史跡、名所）を活かしたウォーキングコースの設定
- ・地元高校生との連携

■取組内容

○公共交通を利用したウォーキングコースの設定

合併前の 1 市 3 町の各地でウォーキングコースを設定。公共交通でのアクセスを考えて、スタートとゴールを駅周辺とし、子どもたちでも参加できるように 5km を目安に距離を設定。



ウォーキングマップ

○スタンプラリー・アンケート調査の実施

ウォーキングの実施に伴い、地元高校生と連携してスタンプラリー・アンケート調査を実施。スタンプラリーの台紙は、高校生のアイデアにより作成。

【スタンプラリー等協力高校】

西尾高等学校 12 人、西尾東高等学校 16 人、鶴城丘高等学校 10 人

一色高等学校 10 人、吉良高等学校 16 人

計 64 人の高校生が協力



スタンプラリー台紙

■取組における展開方法・工夫等

- ・スタンプラリーの企画を高校生に依頼することで、参加する高校生の積極的な参加を図った。
- ・各地区のウォーキングコースは、スタートを駅の近くに設定し、公共交通を利用しやすい環境を整えた。
- ・アンケートを実施することにより、公共交通の利用や問題意識の高揚を図った。
- ・参加者に親しんでもらうために「しあわせウォーキング」のロゴマークを作成し、ウォーキングの募集のポスターやチラシ、スタンプラリー台紙などに活用して展開。



しあわせウォーキングのロゴマーク

■取組の効果

- ・各地区でウォーキングコースを設定したことにより、参加者が新しい故郷の魅力を再発見できた。
- ・地元高校生と連携することにより、若い力を上手く活用し、参加者に楽しんでもらえるウォーキングとすることができた。また、高校生もウォーキングに携わり、参加者と交流することにより、地域の魅力と「エコモビ」を知るきっかけとなった。
- ・市内の様々な団体が参加したイベントであり、多くの団体と連携したウォーキング大会となっており、新たなネットワークの構築を図ることができた。
- ・ウォーキングは、参加者が楽しみながら「エコモビ」を実践でき、電車利用のきっかけとなった。



スタンプラリーの様子



幡豆地区オープニングを飾った三ヶ根マーチングバンド

今後の課題及び展望

- ・今回の合併記念ウォーキングは、新西尾市を市民の方に知ってもらうために実施した。今後は市外からも参加してもらうため、公共交通を利用して訪れてもらうためのPRが必要。
- ・各地区のウォーキングコースを整備し、常時まわること（まち歩き）ができるようにする必要がある。また、駅でウォーキングコースが案内できる仕組みづくりが必要。
- ・アートの島「佐久島」を目玉として、電車～バス～渡船～ウォーキングの実施やレンタサイクルを活用して、「エコモビ」の実践や公共交通の利用促進を予定。
- ・地元観光協会とタイアップし、宿泊者への特典プランなどを予定。
- ・合併記念ウォーキングで協力を得た西尾高等学校は、名鉄存続を願って毎年実施している「名鉄西尾・蒲郡線体感ウォーク」を実施しており、ウォーキングや「エコモビ」促進のため継続して連携を図っていく。



海を一望しながら歩く幡豆地区コース



忠臣蔵で有名な吉良家菩提寺の「華蔵寺」